

■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や自然を体験したり、楽しみながら学ぶことができるフィールドです。里の田園風景や、居久根、草原、湿地、牧野など、里地の自然を再生しています。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆います。秋は柿や栗が実り、懐かしさとぬくもりのあるみちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぐだけでなく、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川・池

湿生花園では湿地を再生し、湿地特有の野草をタネから育て増やしています。カキツバタ、ノハナショウブ、チダケサシ、クサレタマ、アマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ等が咲きます。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

茅などの草が暮らしの必需品であった時代には、各地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、人の手で維持されていた動植物が豊かな草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウ、リンドウなど、50種類ほどの野草をタネから育てて増やしています。野草が彩る広大な草原には、ヒバリやチョウ等、草原の生き物も増えてきました。

放牧区ではヤギやヒツジを飼育し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草を楽しめます。



..... : 春の花野探勝おすすめコース (2,000m)

..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース (230m)

▲ : 見所

～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って歩いていけます。



～体験施設～

自然共生情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。ボランティアや会員活動の参加も募集しています。詳しくはスタッフまで。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター
TEL 0224-84-5991

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

カワラナデシコ (位置C・E)

草原や河原に生えます。草原の減少とともに少なくなっており、川崎町内にわずかに残っていた株のタネから殖やしました。



キキョウ (位置E)

草原に生えます。自生地が減り絶滅危惧種に指定されています。川崎町内に僅かに残っていた株のタネから殖やしました。



カセンソウ (位置D・E)

草原に生えるキク科の多年草です。葉はざらつきます。花の形を歌仙(すぐれた歌人)が乗る車に喩えたといひます。



今日はここを観てみよう！

■湿地や池の生き物

オオイトトンボ (位置B・F)

池を造ると、溜まり水を好むトンボが生息するようになりました。そのひとつのオオイトトンボは美しい青色のイトトンボです。黄色のキイトンボも生息しています。



ミズカマキリ (位置B・F)

カマキリに似ていますが、全く別の科でカメムシに近い仲間です。お尻の管を水面に出して呼吸をします。飛んで移動します。



トウキョウダルマガエル (位置B・F)

仙台平野と関東平野に生息するカエルです。田んぼの圃場整備などで減少しています。よく似たトノサマカエルのお腹は白色ですが、トウキョウダルマガエルには、黒い点々の模様があり、体形もすんぐりして足もやや短めです。



てくてくマツフ 自然共生園

7月



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

オカトラノオ (位置E)

草原に生えるサクラソウ科の多年草です。花穂が虎の尾に似ていることが名の由来です。ヒョウモンチョウが盛んに訪花している様子が観察されます。



コオニユリ (位置C・D・E)

やや湿った草原に生えるユリです。古くに渡来したとされるオニユリに似ていますが、ムカゴができません。ユリ根を好むイノシシが殖え、急速に減少しています。



チダケサシ (位置A・B・C)

湿った草原などに生えるユキノシタ科の多年草で、園芸種のアスチルベに近い種です。キノコの乳茸をこの茎に挿して持ち帰ったことから、この名があります。



今日はここを観てみよう！

■草原に咲く花

クルマバナ (位置E)

草原や林縁に生えるシソ科の多年草です。小さな桃色の花が車輪のように輪生する姿が名の由来です。



■雑木林に咲く花

クルマユリ (位置G)

里山では樹林に生えるユリです。車輪のような輪生する葉が特徴で、平面的な葉を広げることで、薄暗い林の中の光を効率的に受けようとしています。



ソバナ (位置G)

樹林や林縁に生えます。明るい草原に生え、葉が輪生や対生のツリガネニンジンに似ていますが、ソバナは葉が茎に交互につく「互生」です。



今日はここを観てみよう！

■湿地に咲く花

ヌマトラノオ (位置B)

オカトラノオは花穂が尾のように曲がりませんが、本種はまっすぐです。湿地に生え、地下茎を伸ばして群生します。



クサレダマって? (位置A・B)

黄色の花が咲くサクラソウ科の多年草です。名前は「腐れ玉」でなく、地中海沿岸に分布するマメ科の低木「レダマ(連玉)」に似ている草という意味です。



エゾミソハギ (位置A・B)

ミソハギ科の多年草で、お盆のお供えに用いられました。小さな花をよく見ると、雌しべが長いタイプ、短いタイプ、中くらいのタイプの3種類の花があります。

